

「東大寺校倉の謎と魅力」に参加して

秋たけなわの10月30日(土)、好天に恵まれて奈良ソムリエの会主催の「東大寺校倉の謎と魅力」に大学女性協会奈良支部会員4名と賛助会員2名が参加した。転害門案内所に13時に集合して約50分校倉造りの基礎を学習した後、奈良公園内の現存する校倉造りの建物を巡った。

校倉造りの建物の歴史については、弥生時代に高床式の倉庫は既に存在していたことが遺跡から知られているが校倉造りは存在せず、中国、高句麗の丸太などで作られた建物が日本に渡来したものがその源流と考えられている。日本では律令政治が確立された時代に租税などを収納するための倉庫(正倉)が必要となり穀倉として使われた倉庫のうち、最高格の倉庫、甲蔵が校倉の起源とされている。六角形などの材木を組んだ倉庫を起源とした。この様式は日本独特の構造で、防湿、乾燥(湿度コントロール)に優れ、校倉としての強度が確保されまた外観も正倉としての格式が見られ宝庫としての用途にふさわしいと考えられた。日本独特の校倉の構造では、すべて檜材を使いその組み合わせで建物の骨格を作り上げ、高床、校倉、杉の唐櫃により温度、湿度の調整を行い、屋根の重さを支える構造、鼠返しを備え瓦にも種々なものを使い屋根の方向による新旧の使い分けなども行われた。

明治時代以前に作られた校倉は30棟存在しており、そのうちの11棟が奈良県にあり奈良時代のものはすべて奈良市にある。4棟(正倉院宝庫、東大寺本坊経庫、唐招提寺経庫、唐招提寺宝庫)は国宝に指定されている。

東大寺正倉院は756年光明皇后が聖武天皇の遺品を東大寺に献納したものを収める倉庫として使用された。寄棟造り、高床式、校倉造、間口33m、奥行9.4m、高さ21m、北倉(聖武天皇遺品)、中倉(文具、文書、武器)、南倉(法会、仏事関連品)からなっている。補助的であるが、内部に4本の柱や添え柱もある。創建以来10数回の改修工事がなされている。直近では平成23年から26年にかけて改修工事があった。2階建て天井裏にも収納できる。明治41年に皇室博物館の所管となった。昭和28年に東宝庫(聖語蔵經典移設)、昭和37年に西宝庫(正倉の宝物移設)が建造された。昭和21年第1回正倉院展が開かれ今年で73回である。

講義の後奈良公園内の校倉造りの建築物(正倉、聖語蔵、勸進所経庫、法華堂経庫、手向山八幡宮宝庫)を見学、15時30分ごろ南大門で解散となった。この講座を通して改めて奈良公園内の建造物の素晴らしさを再確認し、これらを後世まで保存継承する重要性を実感した1日であった。

(文責：久留島涼子)

